



Malawi Voice vol.9

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊 平成27年度3次隊
言語聴覚士 飯田知美

ごあいさつ

私の任地では乾季の終盤を迎えています。暑い日々が続いたかと思うと、突然強風が吹いてみたり、大雨が降ってみたり、ひょうが降ってきたり…。予測不能な天気には振り回されながら日々を過ごしています。そしてこの時期、天気以上に私の生活に大きな影響を与えているものがあります。それは、ほぼ毎日のように発生する『停電』と『断水』です。マラウイで生活すると決まった時から、ある程度のライフラインの不便な状況は予測していましたが、実際にその状況下で生活してみると水や電気のありがたみをととも感じます。

私の家の近くには、歩いて20mぐらいの至近距離に井戸があります。そのこと自体はとてもありがたいことなのですが、この井戸が「断水しても近くに井戸があるし大丈夫」という私の楽観的な性格にはマイナスの存在になってしまいました。というのも、本格的に断水が始まった9月、その井戸が壊れてしまいました。首都で研修を受けていた頃、任地への引っ越しに向けていろいろ必要な物を買って集めていたのですが、この井戸を頼りに、バケツなどの“断水対策グッズ”はあまりたくさん買っていませんでした。実際に、9月まではそんなに断水になることもなく（月に数回程度）、数個のバケツへの貯水で1日水が停まっても難なく生活できていました。そして迎えた断水シーズン。この時期に停電・断水がたびたび発生することを知らない私に油断生活のツケが回ってきました。加えて最近ウォッチマン（警備員）のアドバイスで、農業（日本の家庭菜園のレベルを超えている）を始めることになり、さらに大量の水が必要になってしまいました。10月に入り、停電・断水状況はさらに深刻な状況になり、普通の生活をするのに四苦八苦の日々を送っています。とはいえ、現地で生活するマラウイアンからしてみると普通のことであり、もともと電気も水道もない生活を送っている人もたくさんいます。

最近の私の頭の中は「家に帰って水が出たら〇〇して、電気が来たら××して…」と常にライフラインの算段でいっぱい状態です。ということで今回は「早く井戸を直しに来てくれますように…」と願いながら、マラウイのインフラについてご紹介したいと思います。

2016年11月
飯田知美



マラウイのインフラ



停電・断水が“ひどい”という表現は、私の主観的な感情によるものです。「じゃあどのくらい停まっているの？」という客観的なデータをご紹介します。10月に入って1ヵ月間、停電と断水の時間帯を記録してみました。

日付	水状況（断水時間帯）	電気状況（停電時間帯）
10/1（土）	×（一日中）	◎
10/2（日）	△（12：00～16：00）	△（16：00以降）
10/3（月）	◎	×（一日中）
10/4（火）	×（一日中）	×（一日中）
10/5（水）	×（一日中）	△（12：00～15：00）
10/6（木）	◎	◎
10/7（金）	◎	◎
10/8（土）	◎	×（一日中）
10/9（日）	×（一日中）	×（一日中）
10/10（月）	×（一日中）	△（18：00以降）
10/11（火）	◎	◎
10/12（水）	△（15：00以降）	△（9：00～20：00）
10/13（木）	◎	×（一日中）
10/14（金）	△（5：00～12：00）	◎
10/15（土）	◎	◎
10/16（日）	◎	◎
10/17（月）	×（一日中）	×（一日中）
10/18（火）	△（15：00以降）	◎
10/19（水）	×（一日中）	×（一日中）
10/20（木）	△（5：00～11：00、19：00以降）	◎
10/21（金）	×（一日中）	×（一日中）
10/22（土）	×（一日中）	×（一日中）
10/23（日）	△（5：00～9：00、12：00以降）	◎
10/24（月）	△（16：30以降）	△（9：00以降）
10/25（火）	×（一日中）	◎
10/26（水）	△（8：00以降）	△（9：00以降）
10/27（木）	△（5：00～9：00）	◎
10/28（金）	×（一日中）	△（5：00～16：00）
10/29（土）	×（一日中）	×（一日中）
10/30（日）	△（5：00～8：30）	◎
10/31（月）	◎	△（5：00～12：00）
合計	◎：9日、△：10日、×：12日	◎：13日、△：8日、×：10日

いかがでしょうか？買い出しなどで任地を離れていたり、自宅にいないで途中復旧していてもわからない時間もありますが、この表をもとになんとなく私のあたふた生活をイメージしてみてください。停電も断水も起こらなかった日は31日のうちたったの4日で、月の前半に集中していて、状況は日に日に深刻になりました。特に断水が多かったです。

ところで、「停電と断水どっちが大変？」という会話を隊員仲間とすることがあります。もちろんどちらも困りますが、私の答えは『断水』です。調理・皿洗い・洗濯・風呂・トイレなど、一日の生活の中で度々使用する水。しかも今乾季のマラウイなのでよく喉が渇きます。そしてこの時期に始めてしまった農業には大量の水が必要になります。10月の末ごろに自宅近くの井戸が修理され、安心したのですが、井戸には生徒と近くの村人による水待ちの列、そして地下水も少ないようでチョロチョロしか出ない水。そんな矢先に再び井戸が壊れて11月20日現在もこの井戸は使用できない状況です。

それでは、水と電気について少しご紹介したいと思います。



【水】

1990年、マラウイ全国（都市部、農村部）で安全な水を生活で使用できる人は国民の約42%でした（農村部36%、都市部92%）。現在では、JICAを含む他国の支援によりたくさんの井戸が建設され、2015年時点で、全国で※約86%の人が安全な水を使用できるようになっています（農村部84%、都市部99%）。（※数字はマラウイ政府発表のJoint Sector Reviewより引用）

この「安全な水を使用できる」という状況についてですが、日本のように水道のある生活はこの国では当たり前ではありません。水道の普及率は10%以下といわれています。農村部では主に私の家の近くにあるのと同じタイプのポンプ式の井戸が使用されています。ロープを使ってバケツで地下水をくみ上げる“昔ながらの”井戸もあるようですが、私は実際に目にしたことはありません。「安全な水を使用できる」とは、農村部では500m以内、都市部では200m以内に水道または井戸がある状態です。500mという距離ですが、バケツ満タンの生活用水を抱えて毎回500m移動するのは、実際にやってみるとかなり大変です。

断水中の生活はこんな感じになります…

- トイレの水はタンク半分の量で節水
- 貯水がなくなると風呂をあきらめる
- 左手におけを持ちながら右手一本で皿を洗う
- 水が出る時にあらゆる入れ物に水をためておく



ロープを使ってくみ上げるタイプの井戸のイメージはこんな感じです。

水は「無いから我慢」というわけにはいかず、毎日必ず使うものなので、とにかく貯水・節水を心がけて過ごしています。そしていつの間にか、風呂・歯磨き・皿洗い・洗濯などほとんどの生活が、水道を使わずにバケツの貯水でできるようになりました。

我が家の近くにある井戸の現状です。生徒が激しくレバーを上下し過ぎたことで、中の部品が壊れてしまい、レバーが動かなくなっています。





【電気】

続いて電気についてです。停電よりも断水の方が大変だ！と言いましたが、やはり停電も生活に大きな影響を及ぼします。

私たち JICA ボランティアはどんな時でも常に安全が確認できるよう、支給された携帯電話を持ち歩いています。その他、自分で持参したスマートフォン、停電用のランタンや懐中電灯、おたよりの編集にも使用しているパソコンなど、充電を必要とする(ランタンと懐中電灯は充電電池を使用)電化製品がたくさんあります。さらに、調理用のクッカー(コンロ)、冷蔵庫、暑い時の扇風機なども使用中止になります。

そのため停電中の生活はこんな感じになります…

- 調理にはパワーを使用。雨が降ると食べることをあきらめるか非常食(クッキー、シリアル)を食べる
- 冷蔵庫はなるべく開けない。そして傷みやすい食材は早めに使う
- 風呂は暗闇の中
- 夜はろうそくや電池の消費を抑えるために早く寝る



私の任地は幸いなことにマラウイでも寒い地域で、扇風機がないと眠れないほど夜は気温が高くありません。マラウイ湖周辺の暑い地域で生活している隊員は、「夜中でも停電になると汗びっしょりですぐに目が覚める」そうです。

さて、マラウイの電気の普及率ですが、2014年時点で約12% (農村部5%、都市部46%)です。水力発電が主流のため、今のような乾季の終盤は全国的に停電が増えます。特に今年は、昨年に続いて降雨量が少なかった影響で、首都のリロングウェでも、「計画停電」や「計画断水」が行われています。(※数字は International Energy Agency のウェブサイトより引用)

今現在、電力会社は「ESCOM (エスコム)」という国営企業に全国一括されています。電気料金はユニットを購入してチャージするタイプの人(主に都市部)もいますが、私の場合は毎月最寄りの ESCOM の営業所(約1時間半)へ行って使用料金を支払っています。料金はもちろん家庭や持っている家電の量によって大きく異なりますが、私の場合はだいたい毎月5000クワチャ(約700円)です。

ところで、電気がない村の人でも、携帯電話を持っている人を見かけます。充電をどうしているのか疑問に思って聞いてみると、「近くの家でソーラーパネルがあるので、1回50クワチャで充電させてもらっている」とのことでした。確かに、私の任地の周辺にも、“battery charge”と書かれている家を見かけることがあります。携帯電話の充電も、マラウイではビジネスになるようです。



さて、今回はマラウイの水と電気についてご紹介しました。電気も水道もマラウイではまだまだ農村部では普及していないのが現状です。JICA のマラウイ隊員の中にも、電気・水道のない家で生活している隊員もいます。ただし、そういった隊員の家には、JICA がソーラーパネルを設置します(安全確認のためのケータイ充電用)。ソーラーパネルの電力は、携帯電話の充電や扇風機が一台稼働する程度で、コンロ・冷蔵庫・ドライヤー・ケトルなどは使用できないそうです。



10月の活動の様子



なかなか活動が進まない9月を乗り越え、ようやく前に一步を踏み出した10月。順調とはいえませんが、気持ちは少し前向きになってきました。

【聴力検査法の指導】

これまで私一人で行ってきた聴力検査ですが、任期が2年しかない私だけが検査ができてても何の意味もありません。そこで、話しやすい先生を捕まえて検査法の指導を行いました。すると、次の先生に教えようとする「俺が説明する！」と言ってくれました。嬉しくて笑顔でその様子を見てると「モタモタしてるから笑ってるんだろう」と言われました。

ただし、大きな問題が発生。聴力検査には電気が必要なのですが、たびたび発生する停電…。追い打ちをかけるように、10月末に学校の電気が故障。今は復旧しましたが、「全クラスの先生に検査法を指導したい」という願いは今ターム中に叶いそうにありません。

【補聴器の寄付】

これは前回のおたよりに書きましたが、補聴器を10名の生徒に寄付しました。その後の状況をお伝えします。

10名中、6名の生徒がほとんど毎日（時々忘れてくる生徒も…）朝から放課後まで補聴器を装着しています。1名は友達と遊んでいる際に補聴器を壊してしまったので使用を中止しています。1名は予想よりも聴力が悪く、装着しても全く聞こえないと言われて使用を中止しました。2名は低学年のため、担任の先生に管理をお願いしています。

そして、使用している生徒を見て、寮に眠っていた自分の補聴器を探し出して、「俺も使いたい！電池をくれ！」と言ってくる生徒が出てきました。現在自分の補聴器を使い始めた生徒が9名います。一方で、使いたいけどもう自分の補聴器を失くしてしまったり壊してしまった生徒もたくさんいます。

【個別指導】

配属先からの要請にあがっていた「発音指導」についてどうするか。これはマラウイに来る前からの大きな悩みでした。その理由は…

- ①自分が個別に発音指導をしたところで、自分の任期が終わった後、継続して実施できそうにない。
- ②聴覚を使っていない現状での発音の指導に限界を感じる。
- ③発音指導の経験がない。
- ④日本語と発音が違うため、正しい発音での指導が難しい。

などです。そのため、個別指導を行うことには抵抗がありました。しかし、このままでは前に進めないで、校長と話し合いをしたり、自分の中で目的を探しながら個別指導を開始しました。

実際の個別指導では、補聴器の管理や電池確認の方法を指導したり、音遊びや鏡を使った母音の発音指導をしました。

～ 活動の様子 ～



<補聴器の電池確認>

前タームに授業で電池チェッカーの使い方は説明しているのですが、個別で復習。3ヵ月ぶりぐらいでもほとんどの生徒が使い方を覚えてくれていました。

<母音の練習>

マウンテンビュー聴覚障害児特別支援学校では、簡単なキューサイン（手の動きで発音を表す）を使用しています。手前にあるのは木製の大きな鏡です。自分の口の動きを確認しながら練習します

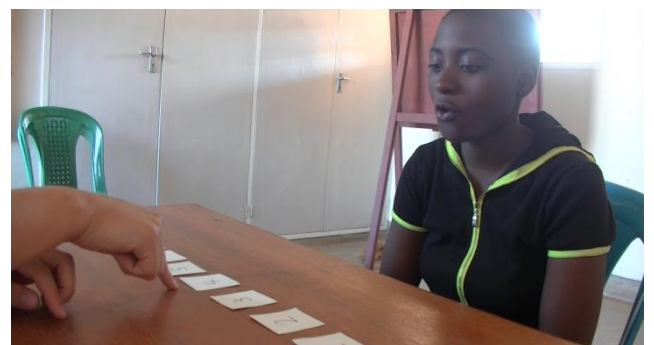


<口の体操>

発音の練習は、まず自分の口を思い通りに動かす練習から。鏡を見せると、初めて自分が上手に動かせていないことを知り、ビックリする生徒もいました。

<数字の聞き取り検査>

私が寄付した補聴器を使用している高学年の生徒です。補聴器の効果を評価するために、時々聞き取り検査を行っています。写真は、検査の前に、そもそも数字の読み方を知っているかどうかの確認をしているところです。



<聴力検査の指導>

先生から先生へと聴力検査法を伝えているところです。私が伝えるよりも現地語で「あーでもない、こーでもない」と討論しながらできるので、初めての先生には分かりやすいようです。

“平均聴力レベル”の計算に一番苦労していました。



～ 生活の様子 ～



時々食べ物や石鹸などを寄付するドナーが学校を訪れます。写真はドナーのみなさんにお礼のダンスをしている男子生徒。

低学年の生徒を中心にサッカー教室をスタート。もちろん私より上手な子もいます。



低学年の生徒達。カメラを向けるといつでもハイテンション。泣いていたはずの子も泣き止みます



我が家の中庭で洗濯。私の服を洗濯してもらっているわけではありません。断水のため、我が家にある貯水バケツの水を使いに来ました。もちろん使用後は水をくみに行ってくれました。



我が家の畑作業を手伝ってくれる生徒たち。畑に行くと毎日集まってきて手伝ってくれます。まさに救世主たち！

10月30日。雨季の訪れを突然告げる雨…ではなく、ひょうが降りました。そしてマラウイの子どもは氷の代わりにひょうを嬉しそうに食べます。